

縄南道通信



平成30年 10月1日 発行

2018年度 第6号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

くすは縄手南校 横小路校舎

日比野 功

東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校区教育理念

～縄南道による～二十歳の成人式に



当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「縄手南」の強固な土台の上に、「くすは縄手南」を積み上げる！

10月を迎え、平成30年度も後半に突入しました。平成31年4月の義務教育学校「くすは縄手南校」の開校まであと半年となりました。3年前、9年生のみなさんが入学した時に、「君たちが中3(9年)になる年は、縄手南中学校の最後の年であるとともに、次の新しい学校の基礎を築きあげる最終年でもあります。」ということをお話しました。まさしくその時がやってきました。義務教育学校「くすは縄手南校」の教育理念は「～縄南道による～二十歳の成人式に当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成」です。つまり現在の縄手南中学校と縄手南小学校の教育理念を引き継ぎます。当然、モットーである「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」も、勝つときには必ず「勝因」があり、負ける時には必ず「敗因」がある。そして「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」、 「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」であるという理念の源も変わりません。だからこそ、義務教育学校「くすは縄手南校」の開校を半年後に控えた今、土台となる「縄手南」の基礎を点検し、さらに強固な土台を創り上げる必要があります。日本一の大きな建造物を建てる際に、土台となる基礎部分のボルトやネジの緩みはないか、日本一の大きな建造物の完成イメージがしっかりと見えているかといったようなことです。ボルトやネジの緩みがあるような土台では、いくらその上に見栄えだけ良い物を積み上げたとしても、いつかはもろく崩れてしまうでしょう。そもそもしっかりと締めおかなければならないボルトやネジが緩んでいるのですから崩れるのは当然です。「くすは縄手南校」の土台となる「縄手南」の点検ですが、「縄手南」の土台とはいったい何でしょうか。縄手南は「日本一」を目指す学校です。「日本一」となる条件は、「自分たちの力をすべて発揮できている」「自分は全力でやりきっている」「自分の持つ能力を最大限に発揮している」「自分の学校や自分たちのがんばりに、誇りを持っている」「自分が今置かれている環境に感謝できる心を育てている」等です。これらを自分たちは、「まちがいなくやりきれている」「絶対に負けていない」と自信を持って言い切れることが条件です。これらを総称して「縄南道」と呼んでいます。自分自身が「もっとやれる」「こんなもんじゃない」と思っている限りはまだ日本一ではありません。最初から「日本一」なんて無理だと決めつけて、「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」に前進しなくてよい理由を並べたてることがありますが、つまりそれは「言い訳」です。「言い訳は進歩の敵」ですから、「縄南道」にはふさわしくありません。さらに細部に意識を向けると、「常に全力疾走」を心がけているでしょうか。常に「0.1秒」にこだわっているでしょうか。「あいさつ」は、相手の心を開けるような「気持ちの良い挨拶」ができていますでしょうか。誰よりも素敵な「返事」ができていますでしょうか。「声」を出して常に気力を持たせているでしょうか。さらに、チームや仲間「感謝」ができていますでしょうか。自分を支えていただいているいろいろな状況

に「感謝の心」を持っているでしょうか。表面的にはわからない裏方の努力まで見えているでしょうか。さらには、スリッパを揃えることや、荷物を整理すること、毎日の清掃も含め「後片付け」は次に使う人のことまでも考えてきちんとできているでしょうか。「後片付けは資質を測るバロメータ」です。どこかに「日本一」があったとすれば、必ずこれらのことは当たり前のようにできる資質が備わっているはずです。当然、疲れた時に休憩することは必要です。休憩であって手抜きでなければ次の全力疾走に必ずつながります。「言われてできるのはまだまだ二流」「言われてもできないのは論外」「言われなくてもできるのが一流」、さらに「人を感動させることができるのが超一流」です。「超一流」には「心」が必要です。「くすは縄手南校」の土台づくりに使える時間は残り半年です。10月を迎え、君たちがこれまで築いてきた土台の点検を全員で行って下さい。「縄南道」が築こうとしている建造物のボルトやネジに緩みがあれば、しっかりと全員で締めて行きましょう。ボルトやネジを締める道具は他の何ものではない、もちろん「心」です。

「グラウンドに一礼」あれこれ！

「グラウンドに一礼」は常にどのチームの選手も行っています。大会関係者として球場に出向く機会が多くあるのですが、この「グラウンドに一礼」でしっくり来ない場面があります。それは立ち止まらないで「礼」だけをしている時や、ユニフォーム等の服装が乱れていても形だけ「礼」をしている場面です。靴を踏んだままとなれば、これは違和感以外の何物でもありません。「グラウンドに一礼」をするのは、大会の関係者や携わっていただいている方々が、整備も含めて自分たちにこのグラウンドを提供していただいているという感謝の気持ちと、自分たちはその感謝に応えるために全力プレーをしますという意味がこめられています。もちろんグラウンドを去る時は「ありがとうございました」という気持ちです。すべて形ではなく「心」がそうさせる場面です。

「マウンド整備」あれこれ！

野球場では試合が終わるとグラウンド整備がされます。使った場所の整備や後片付けは当たり前のことです。試合が終わって一番グラウンドで荒れている部分が投手が投げるマウンドです。マウンドには投手板という白いプレートが埋めこまれていて、プレートの前は試合が終わる頃には穴のように掘れてしまっています。投手が踏み出す部分も同様です。試合や練習の後、グラウンド整備とともにマウンドも整備されますが、次の試合で、次の日の練習で同じマウンドに立つと整備の状況がとてもよくわかります。見た目は整っているけれど、適当な整備でとても投げにくい状態であるか、次に投げる投手のことを考えての整備かは全く違います。整備というものは、「心」をこめてできる選手であって欲しいと思っています。

10月より学校は機械警備となり、特に祝祭日や夜間の警備状況や対応が変わります

10月より東大阪市の小中学校では機械警備体制となります。この機械警備の導入に伴い、これまで学校で昼夜を問わず守っていただいた警備員さんはおられなくなります。したがって教職員はもとより、生徒やPTA・校区校外をはじめとして地域の皆様、施設開放に関係する団体の皆様への対応状況が大きく変わります。これまで警備員さんのご厚意で行われていた事柄はすべてなくなり、機械警備導入後にはさまざまな混乱も生じるかとは存じますが、保護者・地域の皆様、各種団体の皆様の機械警備システムへの早急の対応とご理解をお願い申し上げます。

部活動・コンクール・発表会等表彰

女子バスケットボール 第52回東大阪市中学校総合体育大会 準優勝

水泳 小林叶和(9年)

第54回大阪中学校学年別水泳競技大会 3年男子400m自由形の部 4位4'21"49

第52回東大阪市中学校総合体育大会 男子200m自由形 1位2'04"20 男子50mバタフライ 1位29"01

サッカー 中河内選抜 山崎大地、佐伯亮羽(全9年)

東大阪選抜山崎大地、佐伯亮羽、今川颯太 金子湧樹(全9年)